

## 高齢者だから出来る夢づくり ～中学生に夢を膨らませ、その夢を追う～

江戸時代黒田長政が奨励したという海岸松林の新宮町から古賀市、福津市の2市1町にまたがる円弧松林線は約10kmあり、現在、各地域で保全活動が行われている。その中で、福津市旧福間町に当たる地域コミュニティ「ふくま郷づくりの会」(以下「当郷づくり」)の約2kmの松林はジャングル状態が長年続き、当郷づくりやボランティアでは手が付けられなかった。

### (1) 松林ジャングル状態の解消

市民の熱望等もあって、H22年度市の「松くい虫対策」で「雑木林等伐採・下刈り」実施でジャングル状態解消。

「当郷づくり」の保全活動はもっとも遅くH23.04に始まり、月定例作業定着。

H24.02から「植樹祭」も毎年始まり、毎月の定例活動に伴い、遊歩道の見通しが良くなり散歩者も安心。

### (2) 活動参加者は増えず新課題浮彫

(しかし) 作業参加者は高齢で毎回同じ顔ぶれのため、何れ作業体制が崩れ、元のジャングルに戻る危機感。

H24.10福間中学校に保全作業参加要請すると、部活単位に中学生(以下「生徒」)の応援が開始。作業を教えて覚えると生徒は俊敏。

福津市の広報支援で、各戸配布の市広報誌に「松林特集号」(H24.08)が生まれ、市民カレンダーに毎月活動日時掲載、市HPアップと続くが、参加者増は微々。

(そこで) 市民がもっと松や松林に関心を持ってもらい活動参加に直接繋がるような松林内「道しるべ、地図や作業予定日時の外、松林の歴史等知識の掲示板等看板の着想。

(しかしながら) 看板作成の資金は無いため、苦肉の策としてA4紙に掲示文言を印刷しラミネート加工したものを松の幹に縛って掲示(H25.04.12)するも、風雨で直ぐ傷む。

### (3) ニーズに合致の「看板に使える補助金」発見

(そこに) H25.04.26「ふくおか共助社会づくり基金」説明会で、看板にも使える補助金の確認



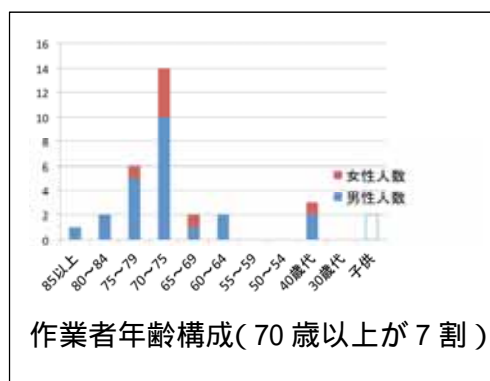
長年放置のジャングル (H21.05)



見通しが良くなった遊歩道と散歩者



風雨で傷むラミネート加工掲示



作業者年齢構成(70歳以上が7割)

を得、さらにその助成事業テーマは「福岡県の豊かな自然や景観の保全活動」とあり、テーマにも合致。

(ところが) 補助金申請資格者は協議体で、「当郷づくり」単独では資格無く、松林作業経験がある「福間中学校」と、土地所有者でもあり、法的手続きアドバイス役の「福津市」の3者で構成して申請。

補助金申請時に、作業者の年齢代を具体的に調べると70歳以上が7割で、5年経過で現作業体制が崩れる危機感が強まり、若い市民参加を促す看板等(サイン)設置はさらに喫緊の課題。

#### (4) 当郷づくりで生徒達と松林勉強会開催(座学と現地)

作業だけでなく、生徒達の夢とアイデアを活かすため、当郷づくりにて、松林の現状、問題点、国定公園等規制、看板等構想を示した座学や、松林内を歩いている勉強会実施。

福間中学校の主幹教諭と生徒達だけ進める「熟議」では、先ず勉強会で学び体験した松林の課題として「作業者の高齢化」その他の認識と、それを解決する望ましいイメージとして「子供が遊べる松林」等、生徒達各自がシールに手書き。次に、4つのテーブル討論では市民が松林に足を運ぶためには、「憩いの場となる公園化」が望ましい等、テーブルごとになんと「松林改造計画」まで提案発表。花見、緑町の両松林に2案。



勉強会は学内座学後、松林内



松林改造計画(4案の1例)

#### (5) 松林内の看板設置には許可申請必要

国定公園や保安林内のため、「松林改造計画」に基づいて、当郷づくりで看板類の内容色彩、設計図、配置図を作成して、事前協議していた関係行政機関に申請して許可書受領。

道しるべは、その形に作った20枚の「白ペンキ塗り板」のままを渡し、表示目的を説明してデザインは美術部に任せるところ可愛い絵と文字で描かれて完成。掲示板の掲示内容は、A型の基本的事項に地図、歴史、その他知識。B型に更新事項の生徒の思い手書き、そのまま掲示。C型に活動記録、中学生からのお願い、作業日時。A,B,C型両松林の全体で6組。

なお、生徒達は進級・卒業していくので、新しい生徒達が看板類に引継ぎ参加できるように、取替え更新が容易なラミネート貼り。



道しるべ 型：遊歩道から脇道へ



当掲示板は、ABCの内B型



道しるべと掲示板の設置作業は、環境景観部会と協働実施。

鳥巣箱は、シジュウガラ想定で出入口穴径を 28mm で中学校に 10 個注文したところ、先生が WEB で調べてモデルを作り、生徒会が生徒ボランティアを募り、工作道具を使って瞬く間に 10 個作成。取り付けは当郷づくりで、作業安全から 2.5m 程度の高さ。

松林の公園化には腰掛が不可欠であり、松の切株を利用して 6 箇所設置。

#### (6) 松林勉強会の生徒達への波及効果と成果

松林勉強会で松林の課題（高齢者の作業員）を知った生徒達は、保全活動で高齢者を応援しようとして昨年（H25.11）には、福中 1・2 年生と先生全員 400 名が松林に入り、郷づくりの指揮下で作業を実施。

この経験は、環境教育にも役立ち将来にも生きて来るであろう。

サイン設置事業の成果として、掲示板の地図を見て、リレーの計画を立てる生徒達の姿も見られた。

生徒達が工作で作った鳥巣箱にはシジュウガラが巣作りし活動する様子を離れた腰掛から観察。



シジュウガラ用に穴 28mm の鳥巣箱



枯れ松の切株 2 個に渡した腰掛

#### (7) 生徒達の想像を超える活躍

福間中学校とは、以前、松林活動に生徒の応援を要請した時「コミュニティ・スクールの地域貢献として格好のテーマだ」と応じてくれ、翌月以降は部活単位で生徒と先生が松林に来てくれた。作業を教えて覚えると生徒達の若い力の速さを見て驚く。その印象から生徒達の体力を看板の運搬や穴掘り設置作業に、出来れば道しるべや鳥巣箱の工作もと着想段階では期待。

ところが、内容に生徒の夢とアイデアを生かしたが良いとのアドバイスがあり、先生と生徒にかなり任せるところ、皆が思い思いの意見を出し合い、想像を超える提案やデザインを出してくれて、まとめてくれた。

一方生徒達は地域貢献に役立った喜びを披露。

高齢者が生徒達に夢を伝えると、彼らはさらに自分の夢として膨らませ、その夢を追う夢の相乗効果が見えた。

さらに、生徒達が作成した鳥巣箱から巣立った「シジュウガラ」は松くい虫対策に繋がるという新たな夢が浮かんできた。



掲示板地図でリレー計画の生徒達